

風景美術館！

システムオリジンの本社は清水にある。といつても、今は清水市ではなく、2003年に静岡市と合併し、静岡市清水区となっている。長野県出身の清野としては冬の厳しい寒さもなく、風光明媚で温暖な気候の清水は天国の様な所だ（実際、私の小さい頃、姉がみかん収穫期に出稼ぎで静岡に行つたところがあり、天国のようなところだと聞かされた）。

冬場の三保の松原から見る富士山の景色は本当に素晴らしいが、実は日本の観光地の中で平原の部でトップ（確か…）である日本平から



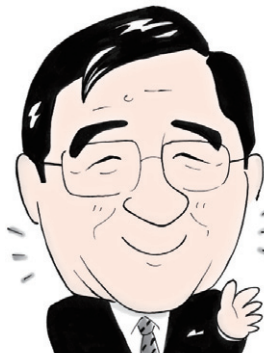
見る富士山とその麓に広がる清水の街と三保半島、清水港の組み合わせも秀逸である。

標高わずか307メートルの日本平は、それでもほぼ360度の眺望が効き、1980年の日本観光地百選コンクールで第一位となっている。その頂上に建つのが2012年に新装開業となった日本平ホテルであり、自称（？）【風景美術館】である。二階まで吹き抜けの全面ガラスの向こうに雄大な富士山と海に囲まれた清水の街並みが見えるこの【風景】は、まさに【美術館】の名に恥じないと思う（但し晴天時のみ…）。

この素晴らしい昼間の風景と夜景を是非社員、さらに社員の家族に見てもらいたいというのが海野社長と清野の夢であった。地元静岡の社員をはじめ、全国各地から集まった社員も、普段はなかなかこのようなホテルでこうした風景を味わうことが難しい。第3次創業というめったにない社内イベントに際し、めったにない体験をしてもらうことが我々の感謝

清野吉光氏のコラム 第89回

団塊 耕 志 録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株タクシースイト創立、現取締役会長。2007年タクシースイト代表取締役社長に新任。2016年3月システムオリジン社長退任。

第3次創業記念
イベント

の気持ち伝えるのにふさわしいかなと思ひ、5月13日の第3次創業記念のイベントとパーティーを日本平ホテルで開催することにした。当初は4月の今期全体会議と同時に開く予定でホテルを予約をしていたが、まさに予定した日に「第18回日本・スペイン・シンポジウム in 静岡」が日本平ホテルで開かれることになり、両陛下が御来静されるとのこと。ほぼ貸切状態（のつもりだった…）のオリジンはその記念イベントの開催の変更を（よろこんで…）余儀なくされた。しかしその心がけの良さ故か、5月13日当日の天候は快晴で、富士山（この時期は少し霞む）も、清水の街も、はつきりと見ることができた。まさに【風景美術館】を鑑賞できたのである！

なかなか記念パーティー

今回の記念パーティーには多くの社員の家族が参加してくれた。奥さんや小さなお子さん、小学生、中学生、高校生など、今までのオリジンには無いイベント風景に

なった。

実は2013年の30周年記念全体研修会でも家族の参加を呼び掛けたが、残念ながら、経営者の家族しか参加してもらえなかった。今回の40名に及ぶ家族の参加はある意味この2年間の経営改革の核心である小集団の社員参加型の活動が、結果的に家族の参加を促してくれたのではないかと密かに喜んでいる。

それぞれのオリジン史

今回の第3次創業の記念式典で、広報奉行の辻リーダーがオリジンの創業前夜から、今回の新しい旅立ちまで30分に渡るスライド形式の歴史物語を作ってくれた。そして、その物語の主人公は創業のメンバーである清野と海野社長になる。しかしオリジンの歴史は果たして二人の歴史だろうか？一昨年、幕藩体制の人事を確定する為に、すべての社員と経営陣による個人面談を行った。

その際、【それぞれのオリジン史】という趣旨で、社歴の長い人も、短い人も、オリ

ジン入社以来の「自分史」を年表形式で整理してもらい、そしてその「自分史」の中で最も印象に残っている事柄を述べてもらった。

当然個人差はあるが、多くの社員の「最も印象に残ったこと」は「苦勞、苦難」の体験である。オリジンの社歴の長い人ほど、その入社初期の頃に「とんでもない苦勞」を体験している。十分な社員教育や準備の無いままに、現場に放り出され、お客様に叱られ、途方に暮れるという経験を多かれ少なかれしている。まさに粗砥石のオンザジョブトレーニングそのものである。そして苦吟しつつも、そこから逃げださずに、踏ん張った人達が、いわば雑草のように成長し、新しい世界を獲得して行った。まさにそれぞれの人々がオリジンの全体史とフラクタル(自己相似)な自分史を経験している。

りも、実は、すでにしてオリジンの理念はそれぞれのやり方で顕現されていることに気付かされる。少なくとも今現在、ある意味過酷な仕事であり、過酷な会社でもあるオリジン(決してブラック企業だとは思いたくないが…)に在籍していること自体がその証左であるかも知れない。

そして家族！



社員の家族もまたオリジンと無縁であり得ず、その大変さを意識、無意識を問わず、担ってくれているのだと思う。34年目になるオリジンでは結婚式を在籍中にあげた社員が20人を超える。そのうち10組は社内結婚である。その結婚式で、挨拶をさせてもらう度に、「オリジン

は大変な会社ですよ！奥さんが支えてくれなかったら旦那さんは持ちませんよ！」と、お願いしてきた。

事実、それぞれの家庭の歴史があり、そこでの一人一人の踏ん張りがオリジンを支えてきたに違いないと思う。組織とはフラクタルな構造を持つ。オリジンが多少なりとも持続し、発展できたと思えば、それを構成する個人、家族も必ず、それぞれのスタイルで「持続」し、「発展」してきているのだと思う。オリジン史は個人史、家族史の総和であり、第3次創業にあたって、我々が少しでもお客様に役立てていけると自負するとするならば、それはまさに個々人と家族の意識、無意識の奮闘の総和に支えられているのだと思う。だからこそ、第3次創業のイベントに当たって、それへの感謝の念をなんらかの形で伝えたい。そしてこれからもオリジンを是非支えて欲しい。改めて今回の第3次創業のイベントに当たって、多くの社員の家族が参加し、そして楽しんでくれた(と思うのです)ことに感謝し、このイ

ベントを企画し、準備してくれた幕府の奉行達に感謝したいと思う。

できるならばオリジンの20周年記念式典の時のように、広くオリジンのユーザーをお招きし、また日頃世話になっている関係者もお招きし、楽しんでもらいたかったところだが、それは40周年の第4次創業を担う次世代経営者の宿題にさせていたいただきたい。

タクシ業を取り巻く環境は激動の時代を迎え、世界的なライドシェアの台頭、国内における新自由主義的な規制緩和の進行が急激に進んでいるが、一方で、5月16日名古屋大学で加藤先生の主導による「公共交通不便地域『くらしの足』を地域みずから確保する方法」のセミナーに400人の方が参加するなど地道な地域公共交通への活動も進んでいる。黒船という外部の力の大きさが物事を決定するのではなく、あくまでも我々内部の力こそがキーポイントであることを信じて、耕志奮闘を続けたいものだ！

(2016年5月20日記)

タクシー買取専門店だから出来る高価買取

LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫!

株式会社ジェット

東京都公安委員会 第305561207814号

本社: 〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-15-9 プローブ浮間舟渡 101 ☎03-6454-9896